
書き手の想い

sachi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
書き手の想い

【Nコード】
N4657T

【作者名】
sachi

【あらすじ】
自サイトから転載

これら全てが、私のライフワークなのだ。

誠に残念ながら、今回ご投稿して頂いた…

見慣れた文章が白い用紙に並ぶ。

慎重に協議した結果、沢山のご応募をいただき、ご期待に添えず、またの機会に…

自分でも同じ文書を空で作れるくらいに暗記してしまった内容の通知書は、すでに何枚目かもわからない。

某出版社に自作の小説を投稿し続けて、もう、30年になる。

初めて投稿した内容はもうおぼろげだが、その当時の気持ちは不思議と覚えている。

まだ若い自分が初めて書きあげた、自信作だった。

プロット作りから独学で試行錯誤した末の処女作。確か学生が主人公の、サスペンスだったはずだ。

今から思えばなぜそんな稚拙な物をと恥ずかしいが、それが若さ故の勢いだったとわかる今だから、同じ分だけ愛しくも思う。

それから30年。

入賞などする影もなく、小説家として食べれるわけもなく、文系の大学へ進み、いちサラリーマンとなった。

相変わらずちまちまと小説を書き、相変わらずの通知が届き、家族が増えて、食うために文学とは何ら関係のない健康食品の営業に出る。

唯一の読者は妻だった。

誰の目にも止まらないような素人の小説を、私だけが読めるなんて贅沢ね、と言つて2日かけて目を通す。

家事やパートに忙しい妻だったが、必ず2日目に読み終える。評価や感想は言わない。それがもどかしい時もあれば、救われる時もあった。

そんな彼女も一昨年、癌で亡くなった。

幸い、早くに出来た一人息子は独り立ちしており、子供と二人、生活に困ることはない。

ただ、家が静かになった。

茶の間にある机の上に置いてある恒例の通知書も、昨年からは自分で郵便受けから取り出した。

来年には孫が生まれる。息子は同居を提案しているが、せっかくきてくれた嫁さんに、こんな邪魔にしなければならない高齢の親父の世話を赤子と同時にさせるなど出来る筈がない。

それに、私にはライフワークがある。

相変わらず面白みのない、もはやエッセイのような小説を書く。そしてそれを仏壇に2日ばかり置いておく。それから相変わらず同じ出版社へと投稿し、通知書が届くのを待つ。

定期的にある一般公募に、定期的に行うそれらの一連の流れ自体が、私のライフワークだ。

決まったジャンルでもなく、とりとめもない内容で、妻が息抜きできる程度の面白さで。

あの頃感じた、これはいける、という不明確な自信。そのあとに繰

り返された失望感。それらを越えて、尚書き続けた書くことへの愛情。

私の作品はきっと、日の目を見ることはこの先ずっと無いのだろう。でも、それでもいいのだ。

書くことの意味は、私だけが知っている。

続けていくことで生まれる何かも、私だけが感じている。

もしかしたら、という薄っぺらな可能性も、私だけが信じれる。

くたびれたネクタイを外して、しがない営業マンの皮を脱ぎ、年代物になりつつある木製の机に向かう。

4代目になる愛用の万年筆を取り、今夜も私は原稿用紙に想いの言葉を書き綴るのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4657t/>

書き手の想い

2011年10月9日03時45分発行